

Oil Market Review 24第31号

2024年（令和六年） 11月15日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週(11月7日～13日)の国際石油市場は、トランプ大統領当選を受け、堅調に始まったが、中国の経済対策を不十分とする評価や軟調な経済指標など経済の減速懸念、OPECの需要見通し下方修正などがあり軟化した。週明け12日からはわずかに値上がりした。

NYのWTI原油先物市場は、7日、反発の72.36ドルで始まり、週末8日は反落の70.38ドル、週を跨いで続落し、11日には70ドル割れの68.04ドルを記録、12日にわずかに反発、13日は68.43ドルで終わった。

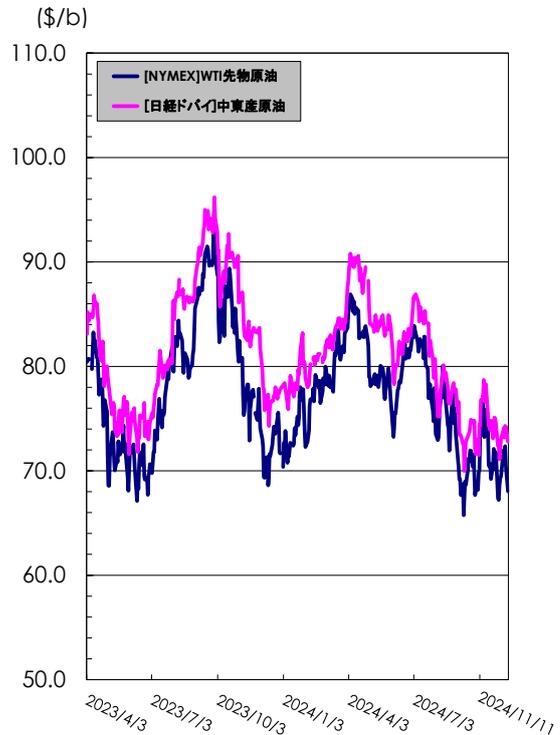
また、中東産パイ原油/東京市場(12月渡し)も、前週(10月31日～11月6日)は72.20～74.10ドルの範囲で推移したが、当週は、11月7日74.30ドル、8日74.20ドル、11日72.80ドル、12日70.70ドル、13日71.30ドル。

対ドル為替レート(TTM)は前週(10月31日～11月6日)152.05～153.64円の範囲で推移したが、当週は、11月7日154.63円、8日153.13円、11日153.14円、12日153.83円13日154.97円となった。

財務省が11月8日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、10月中旬の原油輸入平均CIF価格72,671円で前旬比425円安、ドル建て79.62ドルで前旬比1.54ドル安、為替レートは1ドル/145.10円。

そのような中で、11月11日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.2円高、軽油も同0.1円高、灯油は同横ばい(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.7円となった。11月14日～20日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は16.4円(補助金がない場合の次週予想価格191.2円で、168円から185円の補助率60%支給部分10.2円、185円を超える補助率100%支給部分は6.2円)と、前週比1.5円の増額となった。

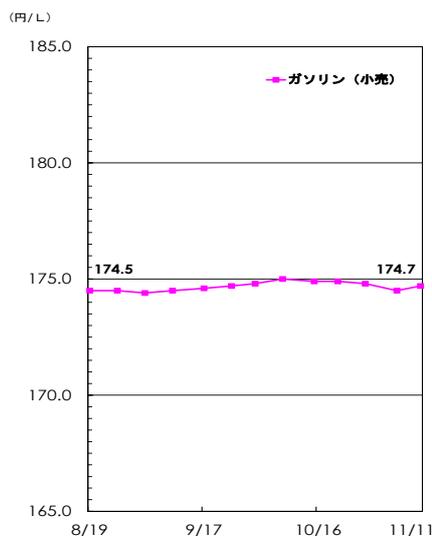
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/3～11/9	2,620 ▼-4	▼-
	トッパー稼働率 (%)	"	75.7 ▼-0.1	▼-
	原油在庫量 (千kl)	11/9	10,601 ▲103	▼-
価格	中東産原油(日経パイ) (\$/bbl)	11/11	72.80 ▼-1.30	▼-9.7
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/11	68.04 ▼-3.43	▼-10.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月中旬	79.62 ▼-1.54	▼-13.14
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	72,671 ▼-425	▼-14,188
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	145.10 ▼-1.91	▲3.77
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/11	154.14 ▼-0.71	▼-1.43



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/3 ~ 11/9	845 ▲ 48	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	785 ▲ 56	▲ -
	輸出	"	25 ▼ -27	▼ -
	在庫	11/9	1,734 ▲ 35	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/5 ~ 11/11	80.0 ➡ 0.0	▲ 2.2
		(TOCOM/中部) 11/11	78.9 ➡ 0.0	▲ 2.9
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/11	174.7 ▲ 0.2	▲ 1.2

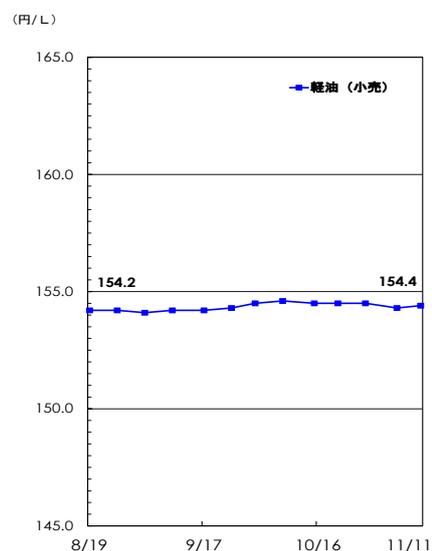
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

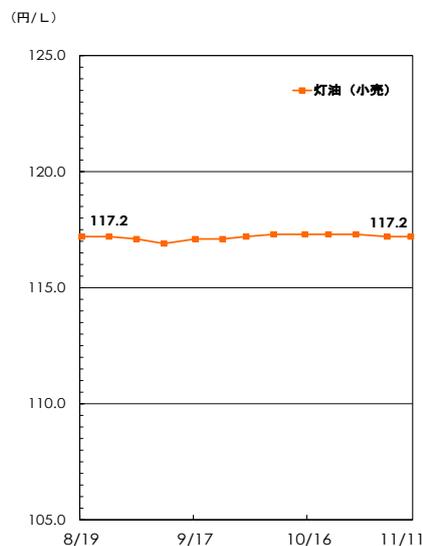
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/3 ~ 11/9	620 ▼ -46	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	527 ▼ -11	▼ -
	輸出	"	113 ▼ -29	▲ -
	在庫	11/9	1,464 ▼ -20	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/5 ~ 11/11	82.1 ▲ 0.9	▲ 3.2
		(TOCOM/中部) 11/11	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/11	154.4 ▲ 0.1	▲ 1.2

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/3 ~ 11/9	187 ▼ -3	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	126 ▲ 22	▼ -
	輸出	"	31 ▲ 31	▲ -
	在庫	11/9	2,748 ▲ 31	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/5 ~ 11/11	80.0 ➡ 0.0	▲ 2.6
		(TOCOM/中部) 11/11	81.0 ➡ 0.0	▲ 4.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 11/11	117.2 ➡ 0.0	▲ 1.5



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(10/31~11/6)のNYMEX・WT先物市場は69.26~71.99ドルの範囲で推移した。

当週、11月7日は、前日の米大統領選でトランプ前大統領が復帰を決め、先行きの政策に不透明感が漂う中、対イラン・ベネズエラ経済制裁の強化観測、メキシコ湾で発生したハリケーン「ラファエル」による供給懸念、予想通りであるものの米利下げ0.25\$決定による需給の引き締め感から、反発した。中心限月12月物終値は前日比0.67ドル高の72.36ドル。

週末8日は、ハリケーンの勢力が衰えるとの観測に伴い供給懸念は後退、また中国政府発表の地方政府への財政支援策が景気対策として不十分との見方から、石油需給の緩和感が高まり、反落した。12月物終値は同1.98ドル安の70.38ドル。

週明け11日は、週末発表の10月の中国消費者物価指数(CPI)が、4か月ぶりの低い伸びを記録、また、景気刺激策が

不十分とされるなど中国経済の先行き懸念が拡大し続落、70ドル台を割り込んだ。為替のドル高進行、バンクオブアメリカの弱気な石油需要見通しも値上がり要因。12月物終値は同2.34ドル安の68.04ドル。

12日は、前日までの値下がり背景に、上昇期待や安値拾いの買いで、3営業日ぶりに小幅に反発した。ただ、この日発表のOPEC月報は、2024年・25年の前年比需要の伸びを、182万BD・154万BDと前月見通しを約10万BDずつ下方修正するなど、中国経済を中心に、需要の減速観測が上値を抑えた。12月物終値は同0.08ドル高の68.12ドル。

13日は、値ごろ感の買いに加え、米国エネルギー情報局(EIA)が、中東の緊張の高まりやOPECプラスの増産延期などで、価格上昇の可能性を指摘し、続伸した。12月物終値は同0.31ドル高の68.43ドル。

2 海外/米国石油市場

11月8日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間石油在庫統計は、退役軍人の日の休日(11日)で1日遅れ、14日の発表予定。

EIAによると11月11日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.7セント安の1ガロン3.052ドル(124.1円/ℓ)と4週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比1.5セント安の1ガロン3.521ドル(143.2円/ℓ)と2週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、11月8日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比横ばいの479基となった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年11月3日~11月9日に休止したトッパー能力は34.5万バレル/日で、前週に対して2.5万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は262.0万klと、前週に比べ0.4万kl減少。前年に対しては14.4万klの減少。トッパー稼働率は75.7%と前週に対して0.1ポイントの減少、前年に対しては1.2ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/6.1%増、ジェット/7.4%減、灯油/1.4%減、軽油/7.0%減、A重油/0.5%増、C重油/1.5%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.6万kl減)。軽油の輸出は11.3万kl(前週比2.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて軽油が減少し、その他の油種で増加した。

前年比ではガソリン、ジェット、C重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は78.5万kl(対前週7.7%増)と2週連続で増加した。ジェット12.5万kl(対前週20.18.6%増)、灯油12.6万kl(対前週20.9%増)、軽油52.7

万kl(対前週2.1%減)、A重油17.7万kl(対前週1.2%増)、C重油14.8万kl(対前週4.5%増)。

(単位：千L)

	今週 (11/3 ~ 11/9)	前週 (10/27 ~ 11/2)	前週比	
ガソリン	785	729	▲ 56	(8%)
ジェット燃料	125	-7	▲ 132	(+1886%)
灯油	126	104	▲ 22	(21%)
軽油	527	538	▼ -11	(-2%)
A重油	177	175	▲ 2	(1%)
C重油	148	142	▲ 6	(4%)
合計	1,888	1,681	▲ 207	(12%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

11月9日時点の在庫は、ガソリン、灯油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは173.4万kl、前週差3.5万kl増。前年に対しては0.9万kl少ない。

灯油は274.8万kl、前週差3.1万kl増。前年に対しては44.3万kl少ない。

軽油は146.4万kl、前週差2.0万kl減。前年に対しては13.1万kl多い。

A重油は78.2万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては0.0万kl少ない。

C重油は177.1万kl、前週差3.2万kl減。前年に対しては11.7万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (11/9)	前週 (11/2)	前週比	
ガソリン	1,734	1,699	▲ 35	(2%)
ジェット燃料	881	946	▼ -65	(-7%)
灯油	2,748	2,717	▲ 31	(1%)
軽油	1,464	1,484	▼ -20	(-1%)
A重油	782	765	▲ 17	(2%)
C重油	1,771	1,803	▼ -32	(-2%)
合計	9,380	9,414	▼ -34	(-0.4%)

5 国内/元売会社製品卸価格

11月5日～11日のドル建て中東原油価格は前週比値上がり、為替レートもわずかに同円安となり、元売会社の卸建値は値上がりしたものと見られる。ただ、補助金の増額で、11/14～11/20の実質卸価格は横ばいとなる模様。

6 国内/製品小売価格

11月11日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の174.7円、軽油も同0.1円高の154.4円、灯油は18%ベースで同横ばいの2,110円(1%ベースでも横ばいの117.2円)。ガソリンは5週ぶりの値上がり、軽油も5週ぶりの値上がり、灯油は2週ぶりに値下がり止まった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がり25道府県、横ばいは7県、値下がり15都府県だった。全国最安値は岩手県の167.6円、その次は徳島県の168.7円であった。他方、最高値は長野県の184.1円。最も値上がりしたのは宮城県(同2.8円高)、最も値下がりしたのは三重県(同0.8円安)だった。

次回調査時(11/18)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/11)	前週 (11/5)	前週比	直近高値
レギュラー	174.7	174.5	▲ 0.2	23/9/4 186.5
灯油	117.2	117.2	▶ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.4	154.3	▲ 0.1	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第32号) の公表は、11/22 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。